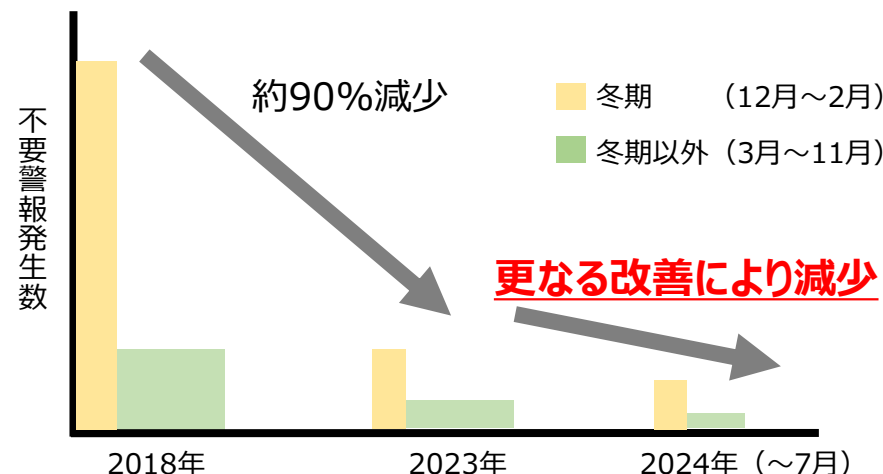


核物質防護の取組・進捗状況について (1/2)

① 不要警報の発生減少

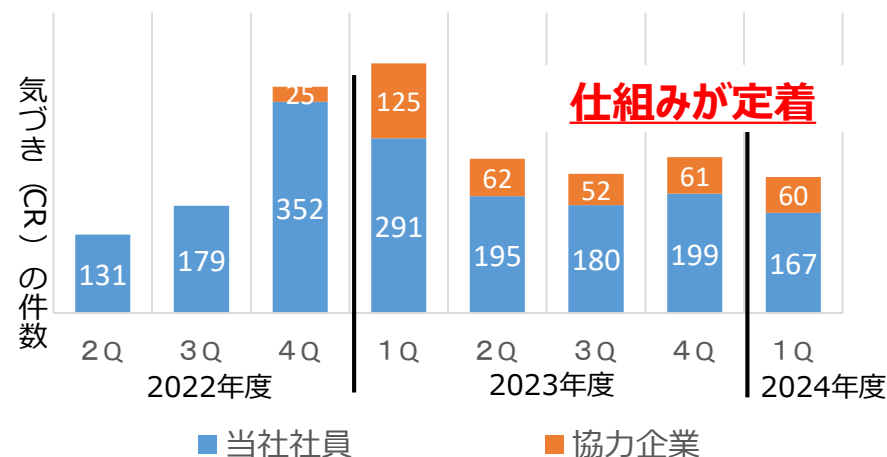
- 不要警報の発生状況については、侵入検知器を気象環境に適した型へ変更して以降、大幅減少※
- 引き続き更なる改善を重ね、減少傾向

※ 不要警報が減少することで、監視する所員や協力企業社員の負担が減少し、正常な監視が実現



② 気づき (CR) を共有する仕組みの定着

- 仕事をより良くしていくことについて、理解浸透を図ることを継続実施
- 改善につながる気づき (CR) を所員や協力企業社員が言い出す仕組みが定着



核物質防護の取組・進捗状況について (2/2)

③ 核物質防護モニタリング室からの指摘による改善

【例1：設備面における核セキュリティ向上】

- 倒木等発生時に防護設備（フェンスやカメラ）を損傷させない対応が必要との指摘
→樹木を伐採することで防護設備損傷の可能性を低減、監視の視認性も向上

【例2：内部脅威者に対する備え】

- 日々の業務の中で、内部脅威者がいることをより意識した対応が必要との指摘
→内部脅威者発生を前提とした警備方法の改善や、内部脅威者発生を想定した訓練を検討

【例3：核セキュリティに対する所員の“自らを証明する責任”としての振る舞いの改善】

- 入社時に入構証を提示する際、イヤホンをしている所員を稀に確認との指摘
→発電所幹部が正門でバスに乗車し協力を呼びかけることで、所員のふるまいが改善

④ 立入制限区域の見直し 準備工事開始

- 立入制限区域の見直しは、今年5月より準備工事を開始済
- 詳細設計を進める中で、新たな施設の設備増強に伴い杭打ち工事が必要となること等から、工程を見直し（2026年中完了予定）



青字：実施済または実施中
緑字：今後実施予定

コミュニケーション活動の取組状況について（1/2）

【コミュニケーションブース】

- 発電所の取組を説明する理解活動の強化のため、7月以降、柏崎刈羽エリアにおいて、5か所でコミュニケーションブースを設置し、930名の方がご来場

日程	自治体	開催場所	来場者
7/20・7/21	刈羽村	サービスホール	433名
7/27	刈羽村	刈羽ふれあいサロン「き・な・せ」	52名
8/15	出雲崎町	船まつり	254名
8/15	刈羽村	ふるさとまつり	110名
8/19～8/25	刈羽村	PLANT5刈羽店	81名
合計（PLANT5刈羽店は8/21までの参加者数を記載）			930名



<今後の柏崎刈羽エリアでのコミュニケーションブース開催予定>

日程	自治体	開催場所
8/26～9/1	柏崎市	MEGAドン・キホーテ柏崎店

コミュニケーション活動の取組状況について (2/2)

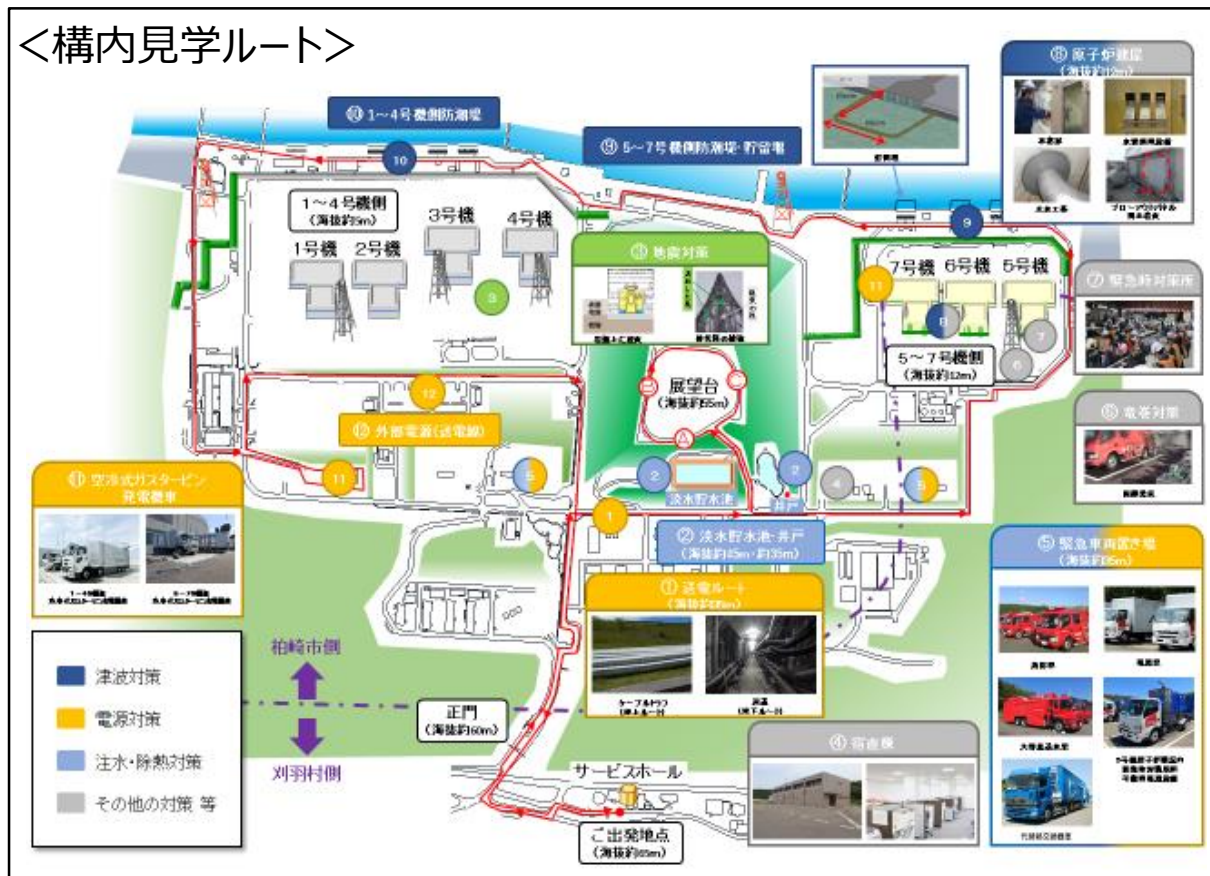
【構内見学バスツアー】

➤ 7月以降、構内見学バスツアーを54回実施（1日に複数回実施）し、488名の方がご参加

日程	参加者数
7/20・21	125名
7/28	23名
8/3・4	44名
8/10～14	251名
8/17・18	45名
合計	488名



<構内見学ルート>



<今後の開催予定>

8/24 (土)・8/25 (日)・8/31 (土)・9/1 (日)

※1日3便実施予定

(参考) コミュニケーションブースおよび構内見学バスツアー参加者の声

【コミュニケーションブース】

【いただいたご意見（抜粋）】

- 様々な対策がとられていることが分かった。
- 柏崎刈羽の活性化のために早く動かしてほしい。
- VRを使って実際の現場の状態を知ることができた。
- 電気は生活に欠かせないので、原子力発電は必要だと思う。
- 能登の地震があって、とにかく県民は地震・津波のことが心配。

【構内見学バスツアー】

【いただいたご意見（抜粋）】

- 正直、3.11以降は原子力反対の考えであったが、今回視察してやれることは全てやっているという印象が変わった。
- 構内に入る際のセキュリティの高さは特に驚いた。
- 実際に見ると見ないのでは大違い。よくわかった。
- 取組みは評価できるが、どうしても先入観や災害の不安がつきまとう。